

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

～デュナミス～

No.36 1999.10.1

本を買う苦勞

今泉 邦子

研究をするには本が要る。本を買うにはお金がかかる。よって研究をするにはお金が必要ということになる。より専門的な本ほど、高価になりがちである。当然、同じ本ならば、できるだけ安く買いたい。そこで、新本、古本、和書、洋書のそれぞれについて、どのようにしたら安くまたは妥当な値段で購入できるかということに関心を持ち始める。

わたくしの専門分野である法律学の分野に天才はいない、という人もいる。モーツァルトは10歳の頃すでに天才といわれたそうだが、その年で法律学の論文を書く人は未来永劫ありえないのではないか。法律学では、過去からの学問的遺産に対して、どれだけ新しい議論を積み重ねることができるか、ということが重要だからである。したがって、論文執筆にあたっては、研究対象とするテーマについて、今までに執筆された本・論文のほか、関連する裁判例についても、目を通す必要がある。日本の法律制度それも特に商法の場合、明治期に西欧の影響を、戦後はアメリカの影響を受けているため、それらの諸国において、どのような法制度があり、どのような議論がなされているのか、を知ることが重要である。

安く本を買えるに越したことはない。しかし、それが研究のすべてではない。ある程度の妥協をしなければならぬ。古本ならば、某有名書店のカタログにでていた値段よりも安い値段がついていたならば、買ってよいと思う。新本は、1割程度の割

引をする書店は沢山あるから、簡便さを追求している。洋書については、高額ゆえ、気持ちを割り切れず、なかなかいい方法が見つからなかった。日本の代理店から多額の手数料をとられることを嫌って、海外の書店に直接購入の申込をし、代金を現金で口座に振り込む方法を使ったこともあるが、この売買契約からトラブルが生じたときが厄介である。最近、大手某書店がインターネット上に開設している仮想書店が気に入っている。これは、為替の変動を反映し、代理店の手数料を低く抑え、かつ直接取引によるような問題はない。

ただし、洋書購入方法にはまだ改良の余地があるようだ。先日、仮想書店を開設する某書店本体に専門書の見積もりを出させたところ、仮想書店の販売価格を上回る価格を提示してきた。念のため、洋書を取り扱う他の2つの有名書店にも見積もりを出させたが、仮想書店よりもよい値をださない。業を煮やして仮想書店で購入の申込をしてしまった。ところが、その後、当てにしていなかった中堅洋書取扱業者の見積もりを受け取って驚いた。その額が最も低かったのだ。一説によると、出版社によっては仮想書店も不得手なところがあるのだとか。自分で所有する必要のない本または買えない本だと判断したならば、図書館の本を借りて必要箇所をコピーするのが最も安くついて、手間も省ける。

(Kuniko IMAIZUMI : 法学部助教授)

図書館あれこれ

50年インタビュー

(前編)

今年は南山大学50周年です。

これにちなんで、大学図書館で在職年数の一番長い内藤英明氏と共に図書館の50年を振り返ってみました。

Q. 昭和38年からこちらでお仕事をされているそうですが、歴代館長(年表参照)の印象をお聞かせください。

内藤：第2代館長ヴァンザイル師より知っていますが、ヴァンザイル師は教授職と兼任(皆そうですが)でしたがよく図書館に顔を出していました。また、木村氏より村松氏までは、図書館の予算や人員を確保することが上手でしたね。

代々(人間的に)いい人たちでしたが、この時代はまだ館員も少なかったせいかよく声をかけてくださったことが印象に残っています。石黒氏以降は組織が大きくなって個人的にお付き合いする機会があまりなくなりましたが、石黒氏や宮川氏時代は事件が多く、ご苦勞が多かったと思います。

Q. 五軒家町キャンパス時代の図書館をご存知だそうです。当時の様子を聞かせてください。

内藤：学生時代を五軒家町の図書館で過ごしたのですが、今振り返ってみると延滞料が高かったですね。当時は何とも思わなかったけどね。昼の定食が50円の時代だったから、(延滞料1冊、1日、10円は)やっぱり高かったね。

図書館は今と違って、とても静かでした。

館内は、閉架式^{*1}で私も出納をやりましたよ。館員は10人くらいでした。閲覧担当者は一人、あとは学生アルバイトで、今とあまり変わりませんが、学生の混み具合を見てよく応援していました。それでもサービスは、今とそう変わらないと思います。とにかくすごい先輩ばかりでしたからね。

Q. 図書館員スカラーシップ制度は当時もまだあったのですか。

内藤：スカラーシップ制度はよく知りませんが、スカラーシップで学んだ人や就職してから講習を受けて力を付けた人たちが、ずっと居ましたからね。今のように人事異動も頻繁ではなく、ずっと図書館でしたから。

Q. 当時の先輩方はどうしているかご存知ですか。

内藤：はい、多くはご健在で、今でも年賀状のやり取りをしたりしています。年齢は70歳近い方から上は、85歳くらいになりますね。

Q. 就職されてから間もなく山里町(現在の名古屋キャンパス)に移ることになりますが、引越しの様子を聞かせてください。

内藤：和書・洋書別置の全館閉架式から和書・洋書混配の開架式^{*1}にすることになったので、

洋書と和書の分類方法を一本化することになりました。ペリー女史の時代からずっとDC（アメリカの十進分類法）だった洋書の分類法をNDC（日本十進分類法）に移行する作業は、引っ越しまでの1年くらいの間に一人の担当者によって行われました。5万冊以上はあったと思います。また、それに伴いStylus（電気ペン）で請求番号を直接本の背に書く作業や、カード目録の修正作業もありました。当時はまだカード目録で、かつ件名^{*2}も作成していたので大変でしたね。

それから、コンテナ一つ一つにそれまでの棚と引っ越し後の棚の番号を付けて、棚一段毎にコンテナに詰めて運びだしました。運びこんでいざ配架^{*3}したら、予定通りに棚に収まらなかったなんてこともありました。

Q. 図書館の企画展で取り上げているA・レーモンド氏の設計や建築に際して、図書館員がどのように関わったかご存知ですか。

内藤：多分設計には関わっていると思いますがよくは知りません。また、私自身はレーモンド氏の記憶がありません。遠くから拝見したことはあったかもしれませんが…。

図書館が完成し、引っ越した時は、随分広くて良くなったなあと思いました。五軒家町の図書館に比べるとかなり広がったので毎日走りまわっていました。

また、今のように図書も多くなかったので、書架も少なく館内もずっと明るい感じがしました。

冷暖房が設置されていましたが、当時もあんまり冷房の利きはよくなかったと思います。しかしあまり苦情もなく過ごしていました。むしろ冬の暖房についての方がいろいろと苦情が多く、よく施設課に温度を上げてもらいに行ったものです。

(次号へつづく)

- * 1 閉架式：利用者は目録で資料を検索し、図書館員に請求して自分の利用したい資料を利用する方式。
開架式：書架に自由に接して資料の利用ができる方式。
- * 2 件 名：ひとつの資料に盛り込まれた主題やテーマを表現するキーワードのこと。
- * 3 配 架：書架に資料を並べること。

■年月	■出来事	■歴代館長
1949.4	南山大学（五軒家町）創立	初代 大沢 章 (’49.6 ~ ’50.3) 図書館長事務取扱 エヴァ・M・ペリー (’51.9 ~ ’53.5)
1954	延滞料徴収制度開始	第2代 テオドール・ ヴァンザイル (’52.4 ~ ’63.7)
1964.4	南山大学 山里町移転	第3代 木村太郎 (’66.4 ~ ’70.3) 第4代 大庭征露 (’70.4 ~ ’71.3) 第5代 塩野谷九十九 (’71.4 ~ ’72.3) 第6代 村松恒一郎 (’72.4 ~ ’74.3) 第7代 山田隆治 (’74.4 ~ ’76.3) 第8代 石黒 毅 (’76.4 ~ ’81.6)
1975	開館延長開始	
1977.1	集中豪雨による図書館冠水	
1980.5	図書館増改築完了	第9代 宮川茂夫 (’81.6 ~ ’88.3)
1982.4	キリスト教コーナー開設 書誌ユーティリティー UTLAS 導入	
1983.4	三宅文庫創設 図書管理システム稼動	
1985.4	入退館システム設置 雑誌管理システム稼動	
1986.4	文部省学術情報システム接続	第10代 山本和義 (’88.4 ~ ’94.3)
1988.5	オンライン目録検索 システム（GEMMA） サービス開始	
1989.4	閲覧システム稼動	
1991	学生書庫入庫制度開始	
1992.5	夜間開館実施	
1994	新図書館システム （CILIVS）稼動	第11代 美濃部重克 (’94.4 ~ ’98.3) 第12代 浜名優美 (’98.4 ~ 現在)

南山大学図書館 秋の企画展

南山大学50周年記念


 アントニン
 南山大学の建築と A.レーモンド展
 

今年は、南山大学開学50周年にあたり、A.レーモンドを秋の企画展で取り上げることにしました。

A.レーモンドは、日本近代建築を切り開いたと評される建築家です。1919年、フランク・ロイド・ライトと共に来日したレーモンドは、ライトに協力して旧帝国ホテルの設計に従事し、その後も日本で仕事をするのを喜びました。以来、旧アメリカ・フランス、両大使館を始め数多くの作品を残しました。そのレーモンドによって、山里キャンパスは1960年代に設計されました。

南山大学が、五軒家町から山里町へ移転した当時のキャンパスは、どんな様子だったのでしょうか…？ レーモンドの引いた図面や写真、当時刊行された雑誌・図書などから、南山大学の歴史を振り返ってみます。

■南山大学図書館で所蔵しているレーモンド関係の資料

請求番号	登録番号	書名	備考
195K/494	0630958	日本の教会堂	P. 70, 71, 121, 134 ~ 136
520/234/v.17	0748710	私と日本建築	
520/6	0158176	自伝 アントニン・レーモンド	
708/10/v.25	0097784	日本の美術 25	P. 98, 99
523K/298	0796009	アントニン・レーモンドの建築	
Z/520/Ke41	0282685	建築	P. 38 ~ 70
Z/520/Ke41	0282684	建築文化	P. 119 ~ 127
Z/520/Ki42	0282686	近代建築	P. 79 ~ 101
Z/520/Ko39	0137531	工事年鑑	P. 266
Z/520/Sh64	0282688	新建築	P. 109 ~ 138

オランダ 礼讃

■オランダ礼讃

芝 修身

オランダを初めて訪れたのは、10年近く昔にさかのぼるだろうか。11月初めというのに日本の真冬並の寒さであった。しかしオランダ人の暖かい心は寒さを忘れさせるほどであった。ホテルに遅く到着したため、両替にはアムステルダム中央駅へ行く必要があった。ひとりの婦人に停留所で市電のことをあれこれ尋ねた。この婦人もハーグへ行くため中央駅へ行くので、同じ市電に乗ることになった。車中多くのことを親切に教えてくれた上、一緒に下車した中央駅で切符を持たない私のために切符を出してくれた。何日間かの滞在期間、人々にもものを尋ねることは一再ならずであったが、何時も心のこもった応接を受けて、心が和んだ。有り難うと礼を言うと、“Enjoy yourself.”とか“Have a nice day.”といった心地よい言葉が何時も返ってくるのである。私もそれまでかなりの国を旅行してきたが、こんなに親切に応接してくれる国民は初めてであった。

オランダに愛着を持ったもうひとつの要因は、ゴッホ美術館と国立博物館の存在である。ゴッホはとりわけ好きと言える画家ではなかったが、ゴッホ美術館でゴッホの全体像に接するや一辺にゴッホが好きになってしまった。とりわけその色彩に魅せられた。国立博物館では17世紀のオランダ市民生活を描いた多くの作品を初めて見て、どの作品も可愛くて親しみやすく気に入った。しかし最大の喜びは、長年見たいと思いながら果たせなかったフェルメールを見ることのできたことであった。フェルメール絵画の微妙な色彩と静謐感を見る者の心を静かな感動に誘う。ヨーロッパの諸所で多くの古典絵画を見てきたが、これほど静かな感動を呼ぶ古典絵画はない。

このように素晴らしい印象を持った国をこの3

月再訪する機会があり、オランダ人に対する親愛の情はいつそう強いものになった。人々の親切は相変わらずであったが、仕事ぶりが能率的でできぱきしていることに強い印象を受けた。問題が生じた時の対応が素早く、的確である。すべてがスピーディーに処理され気持ちがいい。ヨーロッパでこれほど問題処理能力と客に対する対応において素晴らしい国は他にないだろう。

今回の旅でさらにオランダが好きになることがあった。国立博物館で買い求め、筒にいれておいた複製画をアムステルダムのホテルで忘れて、帰国した。旅行エージェントに善後策を問い合わせると、数万円の費用を請求されるのが落ちなので、諦めるように言われた。しかし問い合わせるだけでも問い合わせで見ようと思い、ファックスをホテルにいった。一週間たっても返事がなかったので諦めかけていたところ、2週間ほどたって現物が届いたのである。驚いたことに、丁寧な手紙が添付されているだけで、送料は一銭も請求していないのである。

オランダ人に対する好印象は英語が上手であることからくるのであろう。老若男女を問わず、また職業の貴賤を問わず、人々は英語を良く話す。言葉が通じなくて困ったことはオランダでは一度も経験したことがない。英語が良く通じる国と言われるスイスでも、ジュネーヴはフランス語圏のため英語が通じないことがしばしばであることから、オランダ人の英語運用能力はヨーロッパ一であると言えよう。複数の外国語を話せる人も稀ではない。勤勉で、外国人に優しく、外国語の上手なオランダ人から、われわれ日本人が学ぶことは多い。

(Osami SHIBA: 外国語学部教授)

南山大学図書館に所蔵されている本や雑誌、
CD-ROMなどのうち“知ってよかった！”
そんな資料を取り上げて紹介するコーナーです。

雑誌記事索引ファイル

■ 雑誌記事索引が新しくなりました

従来のCD-ROM版からWeb版に変わり検索時間も大幅に短縮され、
使いやすくなりました。

図書館のホームページ画面

(<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/>) から検索できます。
学内LAN AXiAの利用者であれば、研究室や自宅からでもアクセス
できます。

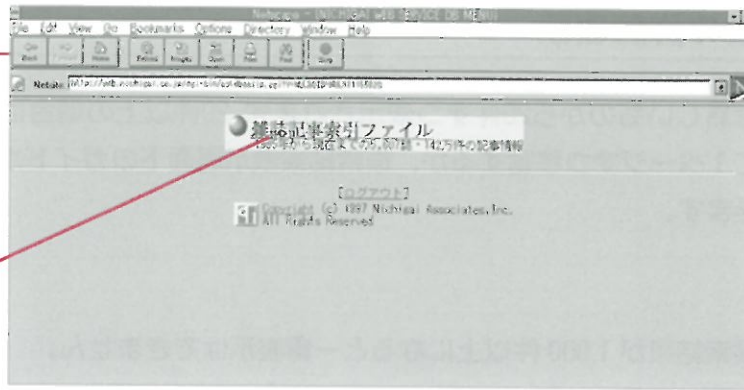
雑誌記事索引とは？

国立国会図書館が収集する国内刊行の雑誌のうち主要な学術雑誌、大学紀要、専門誌
を中心に記載された記事に関するデータを収録した国内最大の記事索引誌。

索引誌には論文自体は載っていません。論文がどの雑誌に載っているのかを論文のテー
マや著者名等から探す時に使うものです。

現在約5,600誌に掲載された169万件の記事情報があり毎年約25万件ほど増加してい
ます。新規情報の更新頻度も月2回（従来のCD-ROM版は年6回）にアップし、よ
り便利になりました。

● 検索方法



分野、雑誌発行年のチェックボックスを選択した上で記事名・論題名、キーワード、著者・編者、雑誌名等から検索が可能です。

①入力文字

- ・入力使用可能な文字は「ひらがな」「カタカナ（全角）」「英字（大文字・小文字）」「漢字」です。
- ・漢字は新字体で入力して下さい。例) 澤→沢

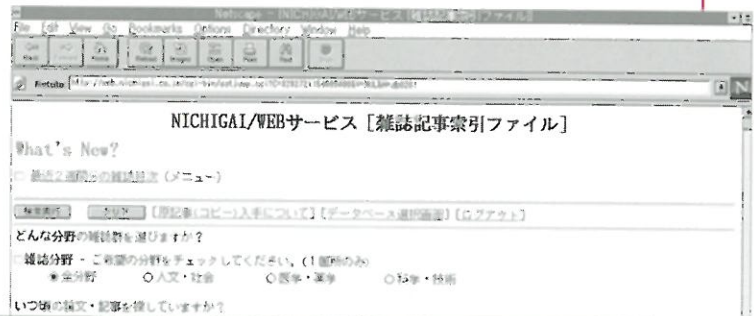
②記事名・論題名、雑誌名、出版社名などの項目から検索する場合はその表記通りに入力して下さい。

③人名を入力する時は姓名間にスペースは不要です。姓のみでの検索も可能です。

④ AND 検索と OR 検索について

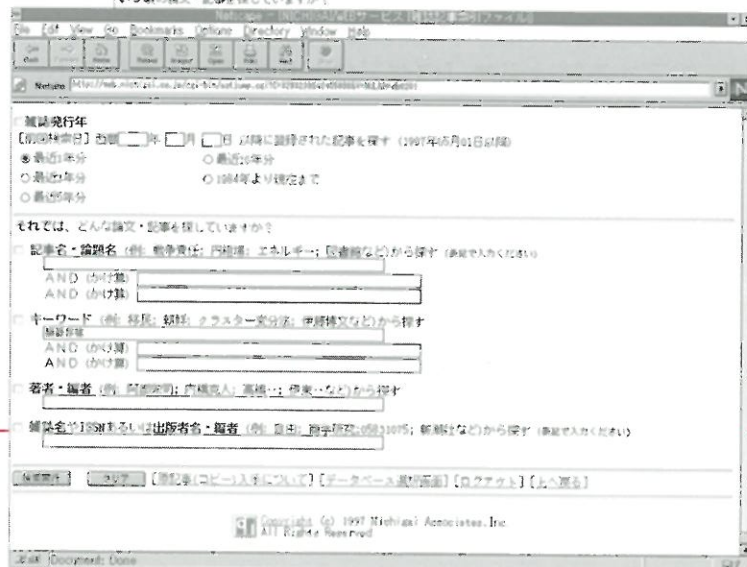
- ・AND 検索 <「A」と「B」という語を両方含む>
上段に入力した語と掛け合わせたい語を下段の AND（かけ算）のボックスに入力します。

- ・OR 検索
<「A」または「B」という語を含む>
検索したい語と語の間に+を入力
(+は半角でも全角でも可)
例) 臓器移植+脳死



入力し終わったら

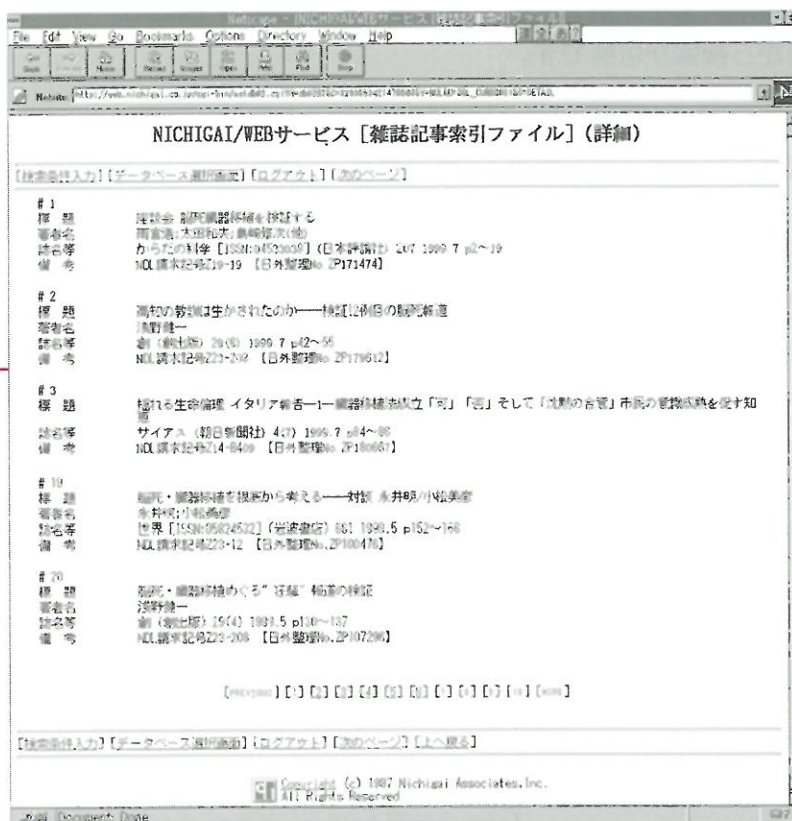
検索実行 のボタンをクリックして下さい。



● 検索結果の詳細表示

検索結果は新しいものから20件ずつ表示されます。20件以上の場合は [次のページ] をクリックして1ページずつ移動するか、検索結果表示画面下のガイドボタンで任意のページに移動できます。

注意 検索結果が1,000件以上になると一覧表示はできません。



お願い：終了する時は必ず **ログアウト** をクリックして下さい。

注意

検索できる対象が1985年以降に出版された資料のみなので、それ以前の資料を検索したい場合は冊子体 (R/020/219) を利用してください。

雑誌記事索引には論文自体は収録されていません。調べた論文が載っている雑誌が南山大学図書館にあるかどうかはGEMMA-IIの検索画面で雑誌名を入力して所蔵を調べて下さい。

(Motoko SAKAKIBARA: 閲覧・参考係 榎原 素子)

僕と図書館

石田春彦

今回「好きなこと書いていいから。」と執筆を頼まれてしまいましたが、いざ書くときになってみますと「何を書こうかなあ。」となかなか筆が進みません。考えた結果、これまで僕が図書館をどのように利用してきたか、それから図書館についてこの頃感じていることを書くことにしました。

まず僕がどのような輩であるのか紹介します。僕は今、大学院に所属してアンデス考古学を専攻しています。聞いたことがあるかと思いますが、いわゆるインカやナスカという言葉で知られている中央アンデスを主なフィールドとする考古学です。現在関心を持っていることは、ペルー北海岸地方の先コロンブス期の文化なのですが、これを語り出すとページをかなり使ってしまうので割愛します。

僕は学部時代も中頃に入った頃からアンデスのことをやろうと思うようになったのですが、それまでの自分の習慣として図書館という場をそれほど有効利用したことがなかったため、最初は図書館をどのように使えばいいのかわかりませんでした(人類学博物館や人類学合同研究所へ足を運ぶ機会のほうが多かったと思います)。それでとりあえず図書館の中を歩いてみることにしました。恥ずかしい話ですが、当時はまだGEMMAなどの検索ツールの使い方も知らなかったように思います。

アンデス考古学に関連する本を探そうと歴史・考古学のコーナー、文化人類学・民族学のコーナー、中南米のコーナーなどをうろろしていると、関係する本がちよこちよこ見つかります。僕は概説書などで一般知識を得ながら、巻末の参考文献欄から興味のある文献をメモしました。

検索ツールについては、ゼミの友人と一緒に図書館に来た時に教えてもらったような気がします。パソコンに不慣れな僕は終始まごつきどおしだったのですが、そのうち使えるようになりました。GEMMAを使えるようになると図書館の利用域がかなり大きくなりました。図書館の書庫、人類学研究所、ラテンアメリカ研究センターなどにも足を運ぶようになりました。今まで知らなかったところの本棚に目的の本が並んでいるのを見つける

と、妙にうれしかったです。

アンデス考古学に関する文献は図書館に決して多くないので、存在しない文献はレファレンスを通して入手することになります。これにかかる費用は結構なもので、何冊もお願いしているとどんどんお金が出ていってしまうので大変です。特に論文のコピーを頼むときなどは、これまでに僕は2、3回ほどやってしまったのですが、依頼が重複しないように気をつけないとムダなお金が出ていってしまいます。

それからコピーで思い出したのですが、ここのところ学内の考古学関係者を悩ましていることに、コピーの—特にそこで使用されている紙の—問題があります。論文用や研究発表用の図版資料を作ったり、館内の考古学文献を複写したりしたい時に、現在使われている再生紙でコピーすると図がつぶれたり不鮮明になるのであまり好ましくないのです。図版の鮮明さが考古学の論文に占める割合は非常に高いので、何とかならないものだろうかと思っています。

さて、だらだらと図書館に関する経験談などを書いてきましたが、紙面の都合もあるのでこの辺で終わりにします。あまりないとは思いますが、参考になる所があったら活かしてください。最後に、アンデス考古学に多少なりとも触れたので、館内にある概説書の類を若干数あげておきます。興味のある人は読んでみるといいかもしれません。

『インカ帝国—砂漠と高山の文明—』

泉 靖一 / 著

1959年、岩波書店 請求番号 [268/42/~A]

『アンデス文明—石器からインカ帝国まで—』

L.G. ルンブレラス / 著、増田義郎 / 訳

1977年、岩波書店 請求番号 [268/150]

『図説インカ帝国』

フランクリン・ピース、増田義郎 / 共著

1988年、小学館 請求番号 [268K/209]

『アンデスの考古学 (世界の考古学 1)』

関 雄二 / 著

1997年、同成社 請求番号 [202K/617/v.1]

(Haruhiko ISHIDA: 大学院文学研究科
文化人類学(考古学)専攻博士前期課程)

資料紹介

今年度、大型予算で購入したものの中から4点をご紹介します。

Journal of transport economics and policy

vol.1-32 (1967-1998)

請求番号 [発注中]

輸送経済学(都市における交通・輸送政策と経済)について中心的な役割を果たしている専門雑誌です。先進国はいうまでもなく、第三世界も含む広い範囲対象としており、一般的な研究から専門的な研究まで幅広く網羅されています。この分野専門の研究者が論文を寄せ、特定のテーマについて臨時に特集号も刊行されます。輸送経済学の問題が幅広く的確に取り扱われ利用者の信頼度も高いと思います。研究・教育の両面で有益な雑誌であると言えるでしょう。

明治期鉄道史資料

第2期:第1集(全15巻),第2集(全28巻)第9~21巻,第25~28巻

野田正穂、原田勝正、青木栄一 編

請求番号[686/222/v.2] 書庫 地下2階

明治時代、鉄道は最先端の文化であり技術であり、それ以降、近代社会の交通と流通を担う重要な役割を果たしてきました。しかし、その国有的な性格から鉄道史の研究資料は、中央で編纂され、保存されてきました。日本経済評論社から刊行された本資料の特徴は、国有的な資料のみならず地方的な資料もかなり収録されている点で、地方における在来の交通や流通ルートに即した実務的なものから観念的なものまで幅広く網羅された集大成といえます。「鉄道会議議事録」、「鉄道作業局年報」などが復刻されており、日本近代経済史の研究において非常に貴重な資料であると言えるでしょう。過去にあまり公表されてこなかった鉄道史の研究は言うまでもなく、都市交通、都市計画の在り方や、政治史の研究にも役立つ有益な資料です。

ボアソナード文献双書

宗文館書店

請求番号[320.8/716/v.-] 書庫 地下2階

- ⑰ *Projet Révisé de Code Pénal pour l'Empire du Japon accompagné d'un commentaire*
- ⑱⑲ 刑法草案註解 [司法省版]
- ⑳～㉑ 再閣修正民法草案註解 司法省最終邦訳版 全7冊
 - 再閣修正民法草案 第2編・第3編摘要
 - 伊呂波順字類撮録表 物権人権
 - 再閣民法草案正条 物権人権
 - 民法草案修正文
- ㉒ 仏蘭西遺物相続史 元老院版

ボアソナード (1825—1910) は、フランスの法律学者で、明治初期に明治政府の招きで来日し、我が国最初の近代的法典である刑法、民法等を起草した他、フランス諸法等を講義し、フランス法学隆盛の基礎をつくった人物です。この資料は、ボアソナードが起草した刑法・民法の草案、著作、講義等 (仏文・翻訳) を復刻したシリーズで、ボアソナードに関する研究のみならず、民法・刑法という基幹的法律分野における明治期日本の立法意志を研究する上で重要な資料です。当館では①～⑱まで所蔵していましたが、今回の購入で①～㉒まで揃いました。

ボワソナード民法典資料集成 復刻版 [第一期]

ボワソナード民法典研究会 責任編集 雄松堂書店出版

請求番号[324/1270/v.1～v.4] 書庫 地下2階

Projet de Code Civil pour l'Empire du Japon. Accompagné d'un commentaire. Nouvelle ed. (プロジェ新版) 1890-1891.

この資料は上記資料の類書で今回購入しました。「草案・正文対照表」「フランス・草案対照表」の索引に工夫が施されています。

ボアソナードを顧問として編纂された日本最初の近代的民法典 (ボアソナード民法又は旧民法と呼ばれています。) は明治23年に公布され、同26年に施行の予定でしたが、日本古来の家族制度を無視しているという批判が強く法典論争が起き、結局、正式には施行されなかったものです。この資料はボアソナードの民法草案等の資料を集めた復刻版の集成 [第一期] のうち第1回配本分です。

(Hisako KATO : 図書受入係 加藤 久子)

南山大学図書館 秋の企画展のお知らせ

南山大学50周年記念

南山大学の建築とA.レーモンド展

南山大学は、今年50周年を迎えました。そこで図書館では、現在の名古屋キャンパスを設計したアントニン・レーモンドにスポットをあててみました。

高度成長期時代の昭和39年にオープンした当時の名古屋キャンパスの資料と、皆さんの見た現在のキャンパスの違いにきっと驚かれることでしょう。

また、新たな発見があるかもしれません。ぜひ、一度覗いてみてください。

会場：図書館1階ブラウジングコーナー

期日：1999年10月25日(月)～11月6日(土)

※10月31日(日)、11月3日(祝)は図書館は休館となりますが、企画展のみ入場できます。

'99 秋期・図書館利用講習会(個人)のお知らせ

春に引き続き、図書館の上手な使い方や資料の探し方などを解説する利用講習会を開催します。これからやってくるレポートで一步リードしたい人、卒業論文でもう一步踏み込んだ情報を手に入れたい人など、奮ってお申し込みください!!

日時 10～11月の平日のうち、ご希望の日時。詳細は申込時に相談。

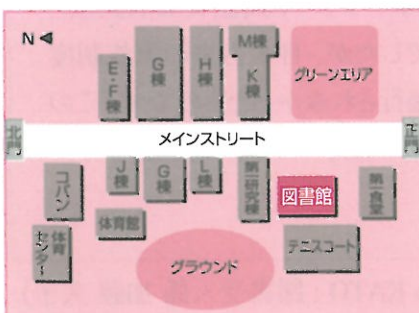
コース ●初級：ツアー方式で図書館内の資料の配置や利用方法を案内。入門編です。

●中級：卒業論文やレポートの作成などに役立つ文献・資料の探し方の解説。

所要時間 約60分

申込方法 図書館1階レファレンス・カウンターにて。受講希望日時の直前まで受付。

～役に立つ情報が満載。受けて良かったと思うこと請け合いデス!!～



《編集後記》

ひとり物思いにふけるにはいい季節です。と、突然の電子音。脳味噌の中で膨らんだ私の思考の風船が弾け飛んだ。だれ!?私の静寂の邪魔をするのは。⑤

南山大学図書館報 デュナミス No.36 1999. 10. 1 発行

<http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/>

〒466-8673

名古屋市昭和区山里町18

発行：南山大学図書館 広報委員会

Tel: 052 (832) 3707

編集委員：紅露、小杉、玉井

Fax(G3):052 (833) 6986

印刷：一誠社